

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』 『ターゲットと指標』 活用事例

小学校編（2022年-2023年）

総合的な学習と社会

- P2・・・幸手市立権現堂川小学校 対象：4年生
福祉の世界にふれてみよう
- P3・・・久喜市立小林小学校 対象：5年生
SDGsについて知ろう
- P4・・・久喜市立栗橋小学校 対象：5年生
利根川といっしょに
- P6・・・久喜市立砂原小学校 対象：5年生
Make Happy Project for the Earth
- P8・・・久喜市立本町小学校 対象：3年生
守ろうわたしたちの地球
- P10・・・熊本市立日吉東小学校 対象：5年生
SDGs 自分に出来ることを考えよう

委員会活動

- P12・・・川崎市立平町小学校 対象：5・6年
SDGsをみんなに分かりやすくしよう。

主催事業

- P13・・・北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見 対象：2～6年
ネイパルエコクラブ2022

日本語

- P15・・・ミルウォーキー日本語土曜会 対象：1年～5年
世界食料デー：おにぎりアクション

外国語

- P17・・・中標津町立中標津小学校／中標津町立丸山小学校 対象：6年
This is my town～地域の中で SDGs を～

理科

- P19・・・久喜市立栗橋西小学校 対象：6年
人と環境

エコクラブ

- P21・・・たつの市内の小学校 対象：4年生～6年生
第6回活動「SDGsを学ぼう」

SDGs

- P23・・・ボーイスカウト埼玉県連盟 ひがし地区 草加第7団 対象：1年生～3年生
SDGsは地球の危機そのものだ!!!

福祉の世界にふれてみよう

学校名: 幸手市立権現堂川小学校

対象	5年生	科目	総合	時間	15時間
----	-----	----	----	----	------

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック 別冊ターゲットと目標』(2021 新訳改訂版)を使った授業事例(幸手市立権現堂川小学校・第4学年1組・11名)

(1)4年総合「福祉の世界にふれてみよう」

①扱い時数15時間

②対象:高齢者、視覚障害者、聴覚障害者、車いすや白杖をつく必要のある方

③SDGs目標11:「住み続けられるまちづくりを」ターゲット 11.7

④教材:「未来を変えたアイデア《シェア金沢》 多様な生き方をごちゃまぜにしてみんなを元気に」『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』pp.102-103.

(2)ねらい

15時間で学ぶ高齢者・障害者福祉の授業の途中に、シェア金沢を紹介して「障害者も高齢者も健常者も、まちの一員」である事例を知り、自分なりに感じ取る。

(3)構成

①「シェア金沢」のWEB ページ(街ナビ)と「未来を変えたアイデア《シェア金沢》 多様な生き方をごちゃまぜにしてみんなを元気に」を読み、グループで感じたことや思ったことを出し合う。

②これから学ぶことを自分たちの生活の中のこととしてとらえ、自分にできること・考えること・行動できることなどを見つけていく。

(4)成果

①子どもの声

・この《シェア金沢》は、いろんな人たちがごちゃまぜでくらしていて、高れい者の方も障害のある人も楽しく元気に、おたがいがささえ合いながらくらしているからすごいなとかんじました。私たちもこのようなゆたかな街づくりをしていきたいです。

・ぼくは、高れい者や障害者も町の人々とたすけ合い、毎日すごしているのが当たり前になっているまちづくりはすごいと思った。

・ほとんどの市町村は高れい者、障害者、などでわけられているけれど、みんな同じやり方ですごしているから、どんな人でも楽しい町だと思った。障害者は料理を作ったりすることができていろいろな経験になると思う。

・高れい者やしょう害者の人に特別あつかいをしないで家庭的にいったんの人と同じような空間を作ってあげているのがいい。

②学習

・車いすやアイマスクの体験をしたのち、白杖体験、点字ブロック体験、視覚障害のある方の講話、手話体験などをおこない、自分の関心に沿って探究する。

・さいごに新聞やパンフレットなどを作成して、自分たちにできることを考え、発表する。

・道徳教材や国語の学習活動と横断的に学びを広げ、心を耕し、発表の仕方を学んだ。

③成果

・「共生」という考え方を、子どもにわかりやすく「ごちゃまぜにして住むまち」と説明したことが、視覚・聴覚障害者のお話や体験活動に生きた。

・子どもたちの「自分にできること」に「ともにまちの一員」として考え、行動することが生かされた。

SDGsについて知ろう

学校名: 久喜市立小林小学校 名前: 加藤 順子

対象	5年生	単元名
科目	総合的な学習の時間	SDGsについて知ろう
時間	5時間	目標
参考資料	アイデアブック等	SDGsについて調べ、自分にできることを考えて実行しよう

期待できる学習効果

- ・17項目から自分で1つ選んでアイデアブックをもとに調べを進めることができる。
- ・アイデアブックからヒントを得て、さらに調べたいことを広げていくことができる。
- ・校内に調べたことや自分で決めた実践できることを掲示することによって、学校全体や家庭にも広めることができ、達成感やさらなる実践意欲につながる。

授業の内容

- ・SDGsの17項目のうち自分で1つ選んで調べ、自分に何ができるかを考えて実践していく。

子どもたちの反応・感想

- ・校長先生が朝会で話してくださったけれど、よりSDGsについて関心が高まりました。
- ・自分事として、考えるきっかけになった。
- ・世界グローバルな視点で考えていけないといけない。
- ・自分だけ良ければいいのではなく、みんなで協力して達成していくことが大切だと思います。



「利根川といっしょに」

学校名:久喜市立栗橋小学校 名前:鈴木 理恵子

対象	5年
科目	総合
時間	
参考資料	アイデアブック等

単元名

「利根川といっしょに」

目標

- その1 利根川の歴史や生き物について知る。
- その2 利根川の環境や防災対策について知る。
- その3 自分たちにできる「SDGsの取組」について考える。

期待できる学習効果

- ・その1 利根川とともに生活してきた歴史や利用について調べるとともに、利根川に住む生き物に興味をもち、地域への愛着を持つ。
- ・その2 利根川の環境や防災対策について調べることを通して、環境保全や防災への取組について、主体的に考え、実践することができる。
- ・その3 栗橋が持続可能な地域にしていくために、自分たちにできる取組について考え、実践する。

授業内容

○利根川の歴史や生き物について調べる。



地域のゲストティーチャーを招き、利根川や栗橋の歴史についての話を聞く。

下級生に向けて発表する。



インターネットを活用して調べる。



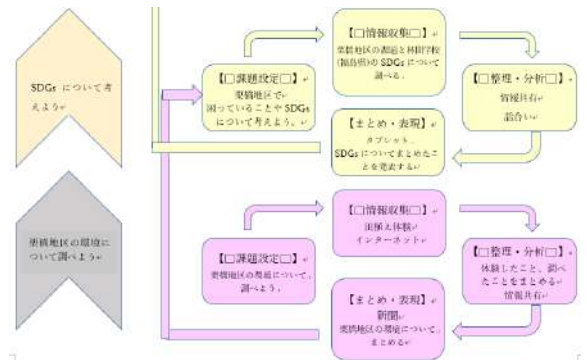
調べたことをみんなに紹介する。

「利根川といっしょに」

学校名: 久喜市立栗橋小学校 名前: 鈴木 理恵子

授業内容2

○資料等を活用し、SDGsの取組について知り、自分たちにできることがないか調べる。



各資料を廊下に掲示し、それぞれがどんな内容なのかを自由に見られる環境を整え、子どもたちの興味関心を高めるための工夫をした。

子どもたちの反応・感想

(児童の感想)

- ・自分たちの住む街を流れる利根川の水質について調べました。きれいだと思っていた利根川も首都圏で大量に発生する排気ガスの汚れが風に乗ってやって来て汚染されていることを知り、川をきれいにするためには、空気もきれいにしていかなければいけないことが分かりました。
- ・水に関する課題を解決するために、JICAの「世界の水問題」の冊子を見て、自分たちにできることを考えました。きれいな飲み水を得ることが難しい国や地域があり、そんな地域で水道整備事業を日本は行っていることを知りました。
- ・地域の水をきれいにするのが、世界の豊かな水資源とつながっていることを改めて感じました。日本でも公害で川が汚染され、病気になる人が多くいた時期があったことを社会科で学びました。キレイな川、きれいな環境を維持していくために、これからももっと環境や世界の国々について学び、世の中の役立つ人になりたいと思いました。

Make Happy Project for the Earth

学校名:久喜市立砂原小学校 名前:齋藤 果織

対象 小5

科目 総合・家庭科

時間 2時間

参考資料

- ・アイデアブック
- ・NHK for School
- ・美術家 長坂真護さんの活動

単元名

総合「砂原 Make Happy Project」 家庭科「生活を支えるお金と物」

目標

- その1 リサイクルの現実を理解する。
- その2 地球環境に配慮した生産、消費について、考える。
- その3 地球環境に配慮しながら生産、消費活動をしていこうとする態度を養う。

期待できる学習効果

- ・その1
リサイクルには手間や費用がかかることが分かりやすくまとめられた動画を視聴することで、リサイクルや消費活動を問い直すきっかけとなる。
- ・その2
地球環境に配慮する生産、消費活動の価値について問い直すことで、自分の生活に活かしていこうとする意識を高めることができる。

授業内容

【事前の学習】

総合「砂原 Make Happy Project」では、「誰もがより幸せに暮らすには、どうしたらよいだろう？」という課題に向け、自分たちを幸せにするMake Me Happyの活動、他者を幸せにするMake You Happyの活動として、ものづくりに取り組んできた。プログラミングや3Dプリンター、360°カメラなどの技術を使い、自分の思いを形にする活動を行い、達成感、充実感に加えて、自分の活動で他者を喜ばせることに幸せを感じる経験を積んできた。

家庭科「生活を支えるお金と物」の学習では、エコマークなどの表示に触れ、地球環境に配慮する生産、消費活動について学習した。

【授業の流れ】

- 1 授業前アンケート(Googleフォーム)
- 2 アンケート結果から、リサイクルについて話し合う
- 3 NHK for School ど～する？地球のあした「ホントにお得？リサイクル」視聴
- 4 リサイクルについて話し合う
- 5 美術家 長坂真護さんの活動を紹介する
- 6 リサイクル、環境問題について話し合う
- 7 授業の振り返り・アンケート(Googleフォーム)

【授業前アンケート】

Q. リサイクルに取り組んでいますか。

A. はい 60.3% いいえ39.7%

Make Happy Project for the Earth

学校名:久喜市立砂原小学校 名前:齋藤 果織

授業内容2

【授業のポイント】

- ・総合と家庭科の学習を繋いでSTEAM教育を意識した。
- ・リサイクルについて話し合う時間を3回設け、リサイクルに対する気持ちが揺れたり、変化したりする子どもに実感させた。
- ・外部人材を活用して、社会と繋がる学びとなるようにした。

【授業後の展開】

地元の企業の協力を得て、教材として使用したプラスチック植木鉢のリサイクルに取り組む。(プラスチック→3Dプリンターのフィラメント)企業の方をゲストティーチャーとして招き、リサイクルの手間や費用、技術、意義について講義していただく。

子どもたちの反応・感想

【授業の振り返り】

- ・ゴミ問題などが起きているのに、地球にいいことを少ししかやっていない自分の生活を後悔した。
- ・リサイクルはいいことばかりだと思っていたけど、思った以上にお金、手間がかかっていることがわかった。でも、だからといってすぐに捨ててしまうと、ゴミの墓場になってしまう。なので、手間が少なく省エネで短時間でできる方法を考える人になりたい。
- ・世界にはゴミの墓場と呼ばれているところがあって、それを見て悲しい気持ちになった。
- ・リサイクルなどは必要ないと思っていたけど、リサイクルしないせいで苦しんでいる人がいるので、リサイクルした方がいいんだと学んだ。
- ・今日の学習でゴミを絵にしているのを見て、「すごい」と思った。それぐらい心を動かせる絵をかけること、「このままじゃダメだ」ということを教えてくれた。これからは環境についても自分ができる活動をしていきたい。
- ・リサイクルは、この先の環境やエネルギーを守ることができる。環境を守るのは人間の責任なので、リサイクルに積極的に参加したい。

Q. リサイクルに取り組んでいこうと思いましたか。

A. はい 96% いいえ4%

守ろうわたしたちの地球

学校名:久喜市立本町小学校 名前:栗城 遥

対象

3年

科目

総合的な学習の時間

時間

70時間

参考資料

アイデアブック等

単元名

守ろうわたしたちの地球

目標

環境問題について調べたり、ビオトープを活用しながら自然を保護するために自分にできることを考えたりする活動を通して、地球の自然環境が危機的な状況にあることに気づき、自然を守るためには自分に何ができるのかを考えるとともに、考えたことを日常生活の中で実践しようとする。

期待できる学習効果

- ・自然や生き物についての関心が高まる。
- ・課題を解決するための力が高まる。
- ・友だちと協働して物事を進める力が身につく。
- ・自然を守るために、身近なところでできることを実践しようとする態度を養うことができる。

授業内容

- ・地球温暖化や絶滅危惧種について
- ・ビオトープに生き物を呼び集める活動(バナナトラップ等)
- ・ビオトープの池の水をきれいにする活動(ペットボトル濾過・生物濾過・EM菌)
- ・身近なところでできるエコ活動と実践
- ・まとめの活動

守ろうわたしたちの地球

学校名: 久喜市立本町小学校 名前: 栗城 遥名

子どもたちの反応・感想

(資料を活用した感想単独ではなく、単元全体を通した感想です。)

- ・絶滅しそうになっている生き物がたくさんいてビックリした。
- ・温暖化の大きな原因が人間の活動だということを初めて知った。
- ・バナナトラップを友だちと一緒ににつくって、虫が来てくれて嬉しかった。
- ・ペットボトル濾過をして、泥水がきれいな水に変わってビックリした。
- ・SDGsがどういうものなのかがわかった。
- ・身近なところからできるエコ活動を1週間取り組んでみて、自分にもできることがあるとわかった。

SDGs 自分に出来ることを考えよう

学校名:熊本市立日吉東小学校 名前:原田 明子

対象	5年	単元名	SDGs 自分に出来ることを考えよう
科目	総合的な学習	目標	その1 SDGs17の中から取り組んでいきたいことを考えよう その2 できることの提案をしよう その3 SDGs行動目標をたてよう
時間			
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGs17の目標の内容を詳しく学ぶことにより自分が取り組んでいきたいことの目標を明確にすることができる。
- ・その2 目標設定から自分ができるとの提案をスタートブックを見ながら考えることができる。
- ・その3 プレゼンテーションを作り発信しよう

授業内容

- ①SDGs17の目標について知ろう
- ②目標の中から自分が取り組んでいきたいことの決定・提案をしよう
- ③行動目標(これから取り組んでいくこと)を発信しよう

①SDGs17の目標の中から 取り組んでいきたいこと



飢餓をゼロに

②できることの提案

- ・食べれる分だけ食べ物を買う。



- ・食べ残しをしない。

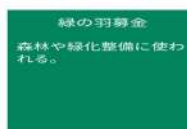
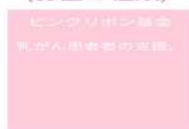
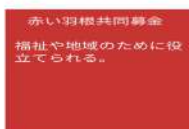


③SDGs行動目標 (これからがんばること)

- ・レイフォレスト・アライアンス認証の商品を買うようにする。



- ・募金をする。



レイフォレスト・アライアンスとは、自然を豊かにして持続可能にしている商品にのみ使われています。

SDGs 自分に出来ることを考えよう

学校名:熊本市立日吉東小学校 名前:原田 明子

子どもたちの反応・感想

SDGs スタートブックの学習

(名前) 大平 果穂

一冊の本で、SDGsの内容が、かんたんにわかって、
総合の時間が、毎回楽しみになりました。
一学期のときから、一年間で、知らなかった
ことや、発見ができて、わくわくするし、小侯
の語彙は、神田先生、くらたさん、大学生
の人達、学習していく中で、いろいろな人達
に会えて楽しかったし、スタートブックにのって
いる動画が、SDGsのことを一つ一つ丁寧に
教えてもらったので、プレゼンテーションでも、
スムーズに作れそうです。
この学習をする前は、SDGsということばかり
知っていたけど、どういうものなのかまったくわか
らなかったのに、一年間学習して、また新しい
情報や、するべきことがわかりました。
これからは、SDGsを知りたいです。

SDGs スタートブックの学習

(名前) 落合 優希

SDGsスタートブックを読んだ感想

私はSDGsスタートブックを読んで色々なことを
知ることができました。また、スタートブックを読む
ことで、SDG17の目標にしっかり対応できたり、よ
り理解できることが増えました。例えば、ゴール
3、「すべての人に健康と福祉を」です。なんと、5さ
いになる前に亡くなってしまう子どもが、500万人も
いるのです。ということは、6秒に1人の子供もが
亡くなっていることになっています。この本では、
これらのこともよくかかれています。これからのこと
についてもかかれています。他にも、ゴール5、「ジェンダー
平等を実現しよう」です。世界では、大人になる前でも
妊娠させられていたり、日常的に暴力をくらったり
する人がいます。このように、平等な機会を得られ
ていない人がたくさんいることがわかるのです。この本のお
かげで、SDGsについて意識できるようになりました。

SDGsをみんなに分かりやすくしよう。

学校名: 川崎市立平町小学校 名前: 土居知道

対象	5・6年	単元名	
科目	委員会活動	委員会活動のため単元名はありません。	
時間	3時間	目標	
参考資料		その1	1から6年生の全校児童がSDGsの目標について分かる。
アイデアブック等		その2	SDGsの目標を達成するために自分たちに取り組めることが分かる。
		その3	作成したSDGsをもとに、自分たちにできることを考えられるようにする。

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsをもっと身近なものとして捉えることができる。
- ・その2 子どもができるSDGsアクションを考えられるようになる。

授業内容

授業内容

- 1、めあてを確認する。「SDGsをもっと分かりやすくしよう。」
- 2、自分で考える。
 - ・本やインターネットなどで調べる。
- 3、グループで話合う。
- 4、今ある委員会でできる活動を考える。
例: SDGs2番: 食べ残しゼロ運動・・・給食委員会など

これを繰り返し、ブラッシュアップをしていく。
委員会活動のため授業時間だけでなく、休み時間も集まり活動した。

ネイパルエコクラブ2022

学校名:北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見 名前:長岡滋雄

対象	小学2～6年	単元名
科目	主催事業	水辺の環境を考える
時間	3回(2日間、3日間、2日間)	目標
参考資料	アイデアブック等	漂着物調を行いサロマ湖の汚染について知る。 持続可能な社会(サステナブル)について知る。 植樹やビーチコーミング等具体的なSDGsに向けた取り組みを考える。

期待できる学習効果

- ・ 自分たちの生活が水環境に与える影響を知る。
- ・ サステナブル(持続可能性)について理解し他者に発信する。
- ・ 活動や学習をもとに次年度以降の活動計画を立案し、継続的に学習に取り組む

授業内容

名称	学年	1回目 7月2日(土)～ 3日(日)	2回目 7月11日(木)～12日(土)	3回目 10月29日(土)～30日(日)
キッズ (Kids)	2年	・ネイチャーゲーム ・ビーチコーミング(漂着物採取)	・ビーチコーミング(漂着物採取) ・イカダ遊び	発表 「漂着物の紹介」
ジュニア・レンジャー (Junior Ranger)	3～4年	・科学的な視点のワーク(GEMS) ・ビーチコーミング(漂着物採取)	・SDGsとは?(外部講師=EPO北海道) ・サロマ湖の水質調査 ・漂着物の分類や測定	発表 「サステナブル・クイズ」
レンジャー (Ranger)	5年～中3	・科学的な視点のワーク(GEMS) ・ビーチコーミング(漂着物採取)	・SDGsとは?(外部講師=EPO北海道) ・サロマ湖の水質調査 ・漂着物の分類や測定	発表 「私たちのアクションプラン」

ネイパルエコクラブ2022

学校名:北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見 名前:長岡滋雄

授業内容 2

3回の活動活動を通じて得た学びを元に、発表の形式を参加者が考え、成果をまとめ、発表した

○キッズ

ビーチコーミング(海岸清掃)の成果を『絵日記』風に発表する

○ジュニア・レンジャー

『サステナブル・クイズ』というタイトルでSDGsや“持続可能性”をテーマにクイズを作って参加者に出題した。

○レンジャー

参加者で話し合いを行い、時年以降の取り組みについて企画を考え実行計画を立案

『私たちのアクションプラン』として発表した。



子どもたちの反応・感想

参加者の感想(事業実施後のアンケートから)

SDGsを学んで

- ・SDGsが思っていたより大変なことだということがわかった。
- ・自分がどう行動をしたら、自分の思う未来になるのかをたくさん考えられた。
- ・世界でおこっている地球の変化がわかった。

ビーチコーミングや試薬による水質調査の活動を終えて

- ・水質を調べる活動が楽しかった。
- ・「コーラ」や「味噌汁」を川や海に流すと危険なことがわかった。
- ・サロマ湖の水がとてもきれいだったということがわかった。

次回に向けて

- ・森に落ちているドングリを植えて苗木を育てて「陸の豊かさ」や「安全な水」を守る活動をしたい。

世界食料デー:おにぎりアクション

学校名:ミルウォーキー日本語土曜会 名前:小島祐子

対象 小学1～5年生

科目 日本語

時間 3時間

参考資料

アイデアブック
動画「のこりものがたり」
絵本「おにぎり」
おにぎりアクションHP

単元名

目標

- その1 「もったいない」という言葉を理解し、使えるようになる。
- その2 残さず食べることを促すポスターが書けるようになる。
- その3 SNSにおにぎりについて投稿できるようになる。

期待できる学習効果

- ・世界に食事を十分に取れない子どもたちがいることを理解し、日々の行動に生かすことができる。
- ・日本のソウルフードであるおにぎりについて理解を深める。
- ・おにぎりアクションに参加し、実際にSNSに投稿することで、日本語で社会とつながり、今後の日本語学習の動機づけとなる。

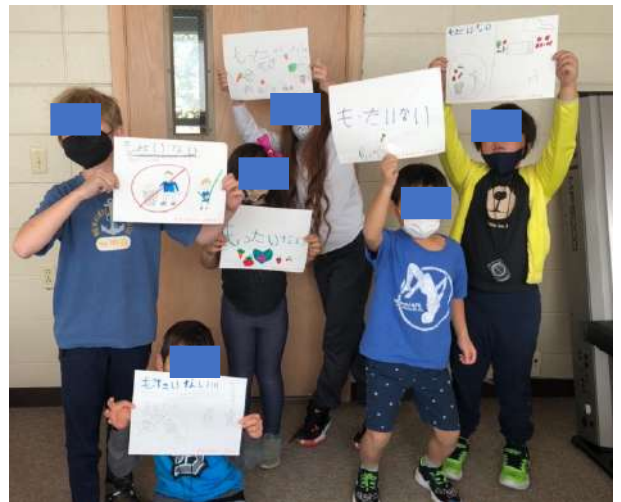
授業内容

1時間目

- ① ウェブサイト「みんなで食べる幸せを」の使えるツール「10月は世界食料月間」を読み教材として使用し、世界の食不足について話す。
- ② 動画「のこりものがたり」を視聴し、自分の日頃の食べ残しなどについて振り返る。
- ③ 「もったいない」という言葉を紹介し、世界食料デー月間のポスターをそれぞれ作成。自宅にポスター貼り、家庭でも残さず食べることや食材を残さぬよう呼びかけるよう指導。

2時間目

- ④ Table for Twoによるおにぎりアクションを紹介
- ⑤ 絵本「おにぎり」の読み聞かせをし、実際におにぎりを作る。導入語彙:ごはん、しゃもじ、ボウル、みず、しお、のり
- ⑥ 作ったおにぎりの写真を撮影



世界食料デー:おにぎりアクション

学校名:ミルウォーキー日本語土曜会 名前:小島祐子

授業内容2

3時間目

- ⑦ おにぎりアクションのウェブサイトで実際の投稿を読む。
- ⑧ 自分が投稿したい文を考え、学校のFacebookページから投稿する。



上野会 Milwaukee Doyokai Japanese Saturday School
October 29, 2022 · 🌐
めっちゃおいしかったです。🍡 #onigiriacction



上野会 Milwaukee Doyokai Japanese Saturday School
October 29, 2022 · 🌐
おにぎりおいしかった。#onigiriacction



上野会 Milwaukee Doyokai Japanese Saturday School
October 29, 2022 · 🌐
おにぎりグー！ #onigiriacction



上野会 Milwaukee Doyokai Japanese Saturday School
October 29, 2022 · 🌐
おにぎりだいすき！！#onigiriacction

子どもたちの反応・感想

- ・世界の子どもに焦点を当て、わかりやすい動画を用いて導入したため、どのような日本語レベルの子どもにとっても理解しやすく、世界に食べ物が十分に食べられない子どもがいることに非常に衝撃を受けていた。ポスターにして表現することで、子どもたちがきちんとコンテンツを理解していることが確認できた。
- ・おにぎりはよく食べているが、「初めて作った！」と感激していた子どももあり、楽しく授業に取り組めた。
- ・実際にコンピューターでタイプしてSNSに投稿してもらったが、SNSに投稿することも日本語でタイプすることも新鮮だったようで、子どもたちの興奮が伝わる授業となった。また投稿文も、短いながらもそれぞれ自分の知っている言葉を上手に使って表現することができた。
- ・日本語を通して、世界の問題について理解を深め、楽しいアクティビティとともに日本語を使う機会、日本語で社会に関わる授業ができ、子どもたちにとっても印象に残る授業になった。

SDGs カードを活用した実践授業レポート

中標津町立中標津小学校 太田三菜美

中標津町立丸山小学校 奥村 康史（外国語専科指導）

○今後 SDGs カードを使う先生へ

非常に汎用性のあるカードだと思います。全体で、グループで、ペアで、一人で様々な形態で使うことのできるカードです。すでに色々な教科で気軽に使うことができています。子どもたちも使い方にすぐに慣れました。また、丈夫なため自作したものよりも断然に使いやすいです。

小学校 6 年生・外国語「This is my town」

テーマ：This is my town～地域の中で SDGs を～

○実施時期

2021 年 11 月頃

○児童・生徒の事前の SDGs 認識

前年度に「総合的な学習の時間」で「中標津の町の未来開発」として SDGs 学習を経験している。

○ねらい

外国語専科指導の教員と共同で外国語に「SDGs」の軸を取り入れて授業作りと実践を行いました。その背景として主に 2 点を挙げます。

1 点目は外国語や外国語活動は他教科と横断させて学習することでより高い教育効果が期待できることです。

2 点目は外国語専科にすべて一任してしまうのではなく学級担任と協同して授業を行うことでより子どもたちに寄り添った授業が実践できることです。そしてその中に SDGs の軸を入れることで、学びの多様性をさらに広げることができました。

○学習活動の流れ

前年度総合的な学習の時間で学んだ中標津の町の未来開発での学習経験を生かして、中標津の未来について SDGs の項目と結び付けて、英語で伝える学習を行いました。詳しくは学習指導案をご覧ください。(7 時間目及び 8 時間目)

○児童・生徒の反応

SDGs を意識した将来の中標津の町をイメージできた児童が多く、その町づくりにした理由もとても明確でした。グループで活動したことで、グループ内でも SDGs の目標(ゴール)の設定をするにあたって多様性があり、学習してきたことをつなげて考えようとする姿を見ることができました。

【共同実践授業者の奥村教諭より】

総合的な学習の時間と関連することで自分たちが求める町づくりについてグループで話し合い、英語で伝えたいことを考えることができました。

外国語を通して今までの学習を活かしたことでどのグループも楽しみながらいきいき表現することができていました。

○授業風景



○参考資料

【学習指導案(単元計画)】

作成者：中標津町立丸山小学校 奥村 康史



人と環境

学校名:久喜市立栗橋西小学校 名前:田路 政義

対象	第6学年	単元名
科目	理科	「人と環境」
時間	3時間	目標
参考資料	アイデアブック別冊	その1 人と環境の関わりについてSDGsの目標と関連付けて考えることができる その2 自分で課題を見出し、調べたことをまとめ、伝え合うことができる

期待できる学習効果

- ・その1 自分を取り巻く環境とSDGsとを結び付けて考えることで、主体的に課題解決しようとする
- ・その2 自分たちにできることを具体的に調べ、情報選択をして発表資料にまとめることができる

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

1、SDGsを詳しく知ろう！

- ①SDGs17の目標について具体的なターゲットを知る。(アイデアブック別冊)
- ②世界の課題・問題と身近な生活との結びつきを考える。
- ②興味のある目標の中から、さらに調べたい具体的なターゲットを選ぶ。

2、自分たちにできる取組を調べよう！

- ②自分の興味がある目標・ターゲットを選んで調べ学習をする。(一人1台クロームブック)
- ③目標達成に向けて自分たちにできることをスライドにまとめる。(Googleスライド)

3、調べたことを発表しよう！

- ①スライドを使って調べたことを発表する(Googleスライド)
- ②発表を聞いた感想を送り合う(ミライシード:オクリンク)

人と環境

学校名:久喜市立栗橋西小学校 名前:田路 政義

授業内容2

児童作成のスライド

- ①自分たちにできる工夫をまとめる
- ②スライドに関係するSDGsマークを入れる



子どもたちの反応・感想

＜児童の感想＞

- 自分の知らない問題や取組を知ることができて、これから実践してみようと思った。
- 知っている言葉もあったけど、知らない言葉を知ることができて勉強になった。
- SDGsの目標と関係があることがたくさんあったので、もっと調べてみたいと思った。

第6回活動「SDGsを学ぼう」

学校名: たつの市内の小学校 名前: 林山祐子

対象	4-6年生	単元名	第6回活動「SDGsを学ぼう」
科目	エコクラブ	目標	
時間	10:00-12:00		
参考資料	アイデアブック ゲットザポイント		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsへの理解
- ・その2 自宅へ持ち帰って家族などと会話が増える、健やかな青少年育成を目指す
- ・その3 SDGsの目標の内容やなぜSDGsがあるのかを自分ごととする。自分自身や友人の意見を相互に聞くことで広い視野で社会を見る目を養う

授業内容

開始前に配布し黙読時間をとる
SDGsの有限な資源の活用を考えるテーブルゲームを実施
再度黙読時間を設ける
開始前に気になった目標、修了後に気になる目標を出し合い、それぞれの想いを共有する

第6回活動「SDGsを学ぼう」

学校名: たつの市内の小学校 名前: 林山祐子

授業内容2

問は少なく、
発言時は、内容を広げるように 促す

子どもたちの反応・感想

開始前の黙読の時間、自由なスタイルで読んでもらった。それぞれ思い思いの場所で読んでもらった、窓際だったり、隅っこだったり、指導員のすぐそばで読む子もいたり、みんな自由。床に寝そべったり椅子に座ったままだったり。

ゲーム後は、発言が活発になり、このページはこことか、どの目標がつながっているとか、学校で学んだことや、興味関心のあることと結び付けて発言することができた。

戦争や紛争がある中、日本はどうなるんだろうと、心配に思っている児童は多い。それを、声に出して言うのを憚れることだと思い、話さない子もいるが、今回は、心配って言うこも出てきた。このまま戦争が続けば、経済はどうなるのかを話し合うことになった。

ニュースをしっかり見聞きしていることがよく分かった。

今後は新聞の学習を実施してもっと学習を深めてもらいたいと思う。
じぶんの気持ちは自由で、発言は丁寧に言葉を選んで、伝えよう。
市役所に置いてある 市長への手紙や目安箱は年齢が関係なく発言できる場所、大人には分かってもらえないと行動をやめてしまうのではなく、できることをやってみようということを伝えた。

体験や気づきが、行動を伴って大きな力になることを子供たちに伝えることができたと思う。

SDGsは地球の危機そのものだ!!!

ボーイスカウト埼玉県連盟 ひがし地区 草加第7団 名前: 濱田真輔

対象	小1～中3	単元名
科目	SDGs	SDGsを考慮したキャンプ
時間	50時間	目標
参考資料	アイデアブック	その1 SDGsとは何かをサステナビリティ専門家から理解する その2 実際に日本ジャンボリー(全国大会)のキャンプで実践する その3 実施した成果を多くの人に報告する

期待できる学習効果

- ・国連グローバルコンパクトに参画し、英国CMI認定サステナビリティ(CSR)資格を持った指導者にSDGsが何を求めているかを教えてもらい、自分たちの班で実践するにはどうしたら良いかを考え、発表する。
- ・2022年8月に実施される第18回日本スカウトジャンボリー(5泊6日のキャンプ)において、各班単位で計画を実践する。考えていることと、実践することの違いを理解する。
- ・実施した成果を最終報告会、秋のキャンプで発表する。何がよかったか、今後どうしたらよいか。

授業内容

- ・学校の教諭では持っていないグローバルな視野を持った方から話を聞いて、SDGsとは何かを理解する場を提供する。
- ・ボーイスカウト活動は学校も学年も違う男女のスカウトが集まって班を作っているのも、ダイバーシティそのものの環境において、普段の生活から出ない発想やアイデアを出すことにより感性豊かな、そして新たな気づきを持つことができる環境を提供する。
- ・今年度は第18回日本スカウトジャンボリーが開催され、全国で開催されたキャンプ会場とネットワークをつないで、北海道から沖縄までのスカウトがどのような活動を行っているかを確認することができ、行動の視野が広がった。
- ・日本スカウトジャンボリーの埼玉サテライト(埼玉県秩父ミューズパーク)は、全国で最もスカウトが集まった地域であり、SDGsを体感する絶好の機会となった。特に他の地域のスカウトとの交流や秩父地方の郷土文化にも触れる機会となり、有意義な経験となった。
- ・キャンプの報告会は公民館の舞台上で経験談を発表する場となり、緊張しながらも堂々と多くの聴衆を前に報告することができた。
- ・個別の団キャンプではジャンボリーの詳細報告に加え、いろいろあったハプニングを披露され、学校では得ることができない経験となったことを確認できた。

SDGsは地球の危機そのものだ!!!

ボーイスカウト埼玉県連盟 ひがし地区 草加第7団 名前: 濱田真輔

授業内容2

- ・ SDGsについては日本においては知ることのできないことを有識者によって教えていただき、学校では習うことのないリアルな現状を理解できた。
- ・ 5泊6日のキャンプにおいて、ゴミについて、水について考え、また多くの人々との交流を通して感謝の心を持つことを意識してもらうようにした。
- ・ 4月から9月までの期間、学区だけでなく、近隣の自治体のスカウトとの合同集会を通して、知らず知らずに多様性について体感することができた。
- ・ 発表会に先立って、スカウトには感想文を書いてもらい、自分の気持ちを素直に文字として残してもらった。

子どもたちの反応・感想



左、右上 9月18日最終報告会(草加市中央公民館)
右下 9月23日団キャンプ報告会(舎人公園)

私は、六月十二日のSDGsの勉強でたくさん
のことを学びました。SDGs、名前などは知って
いたけれども、具体的な内容はあまり知らな
かったです。だから今回の、SDGsの勉強が、SDGsを
知ることの機会となりました。でも、聞いている
と想像以上にこんな状況だということに
おどろきました。二十三年までの目標が十
七(十八)個もあるなんて。
私は、こんな社会を絶対に変えたいと思
います。でも、それは一人ではできません。
だから、日本全体、世界全体、宇宙全体でや
れば、き、と十七(十八)個の目標はき、こ
い、や絶対た、せいできると思っています。だから
キャンプのときに節水、ゴミの出しすぎ
などに心がけるように、キャンプに参
加したいです。キャンプがめ、た、使も、
SDGにかんしてのこと、たくさん聞わっ
たいです。

私は、その中でも一番感心を持った事は、
2「飢餓をゼロに」6「安全な水とトイレ
を世界中に」です。2は「飢餓をなくし、す
べての人々に安全で栄養のある十分な食料を
一年を通して得られる」という目標に感心を持
ちました。私は、その話を聞いて幸せ物なん
だなと思いました。また、すべての人々が等
しく、安全で入手可能な価格の飲料水を利用
できるようにするという目標に感心を持ちま
した。日本の水は、きびしい水質基準があり
安全でおいしい水が飲めます。そのため、私
たちは安心して水を飲むことができるのです。
他にもたくさん目標があります。その目

た、目標にしました。
私は、埼玉キャンパーでも、こ、か、の生
活でも、3Rや節水・節電、徒歩や自転車を使
うなど、細かなことも気を付けて、実行し
ていきたいと思います。
SDGsは誰か個人の問題ではなく、私たちが人
の問題です。人間は今まで周りを考えずに
勝ちや、また結果がどうして出てきてい
るのです。人の作ったことなので、人が解決
しなければならぬと思います。